

家内繁栄と子供たちの
健やかな成長を祈願します。

世界
遺産

元興寺

地蔵会万灯供養

8/23(金)・24(土)

万灯供養当日受付
午前9時～午後8時(境内受付) **両日とも
入山無料**

◆奉納行燈会 午前9時～午後8時30分

◆地蔵会法要 午後5時 厳修

※法輪館は両日閉館 ※駐車場はございません

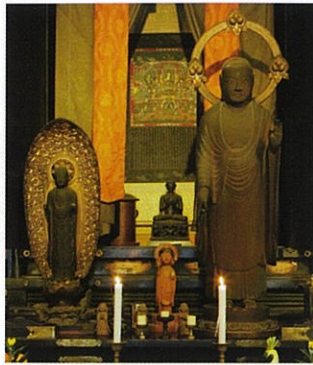


お問合せ **世界遺産 元興寺** 〒630-8392 奈良市中院町11
TEL.0742-23-1377

[8月23・24日の入山時間]
午前9時～午後8時30分 ※入山受付終了 午後8時



あんどん揮毫献灯風景(曼荼羅堂内)



本尊地藏尊群(本尊須弥壇上)



塔婆供養風景(浮図田前)

地藏会の歴史

元興寺は、我国で最も古い歴史をもつ寺院で、現存唯一の官大寺僧坊の遺構を伝える国の史跡でもあります。この寺は、上代においては三論、法相の教学所として、平安時代には真言、浄土の霊場として、また中世以降は、納骨の律院として信仰されてきました。これらの歴史と文化財が評価され、ユネスコの世界文化遺産「古都奈良の文化財」のひとつに登録されています。中世以来の元興寺庶民信仰は、様々な内容と形態をもつて世間に広まってきましたが、中でも地藏信仰は最も盛んでありました。

毎年八月二十三日・二十四日の両日に亘って執り行う元興寺地藏会は、昭和二十三(一九四八)年に復興された宗教行事で、曼荼羅堂(国宝・極楽堂)に掲げられた各界知名士奉納のあんどん揮毫などが初志の行事の形です。灯明を点じての供養は、昭和六十三(一九八八)年、浮図田の整備とともに、その作法として発意したものです。浮図田とは、石塔・石仏(浮田)を田圃の如く並べた中世の供養形態を示しています。他者に代わって苦しみを受ける菩薩に期待し、有縁無縁一切霊等を追善し、家内安全と子供達の健やかな成長を、そして世界平和を地藏大菩薩に祈願する行事でもあります。

令和六年供養次第

地藏会供養は、法要(地藏尊供養)・塔婆供養・万灯供養・あんどん揮毫献灯・

地藏尊御影配布の行事からなります。

地藏尊供養は、曼荼羅堂(国宝・極楽堂)の須弥壇上に地藏尊を奉安し、法要を執り行います。塔婆供養は、五輪塔形の塔婆(経木)に祈願を墨書し、浮図田前庭でその一枚毎の供養を加持し、浮図田の最奥に設けられた祖師苑で浄水を掛ける水塔婆供養を施します。

万灯供養は、両日の夕刻より、祈願を墨書した灯明皿に、菜種油を注ぎ蘭草の灯芯に点灯するものです。灯明皿は土に還るべく低火度で焼成したものです。菜種油は、「大和の国菜の花プロジェクト」から、また、蘭草の灯芯は、奈良県安堵町歴史民俗資料館灯芯保存会から献納されたものです。

地藏尊御影は昭和三十三年太田古朴氏奉納の宝塔内地蔵尊(元興寺印仏写)の御影です。



令和六年御影



裏 表 塔婆供養



灯明皿



ちょうちん奉納(曼荼羅堂東正面)